

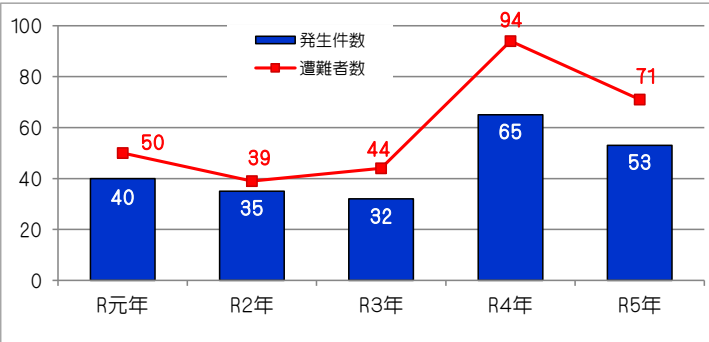
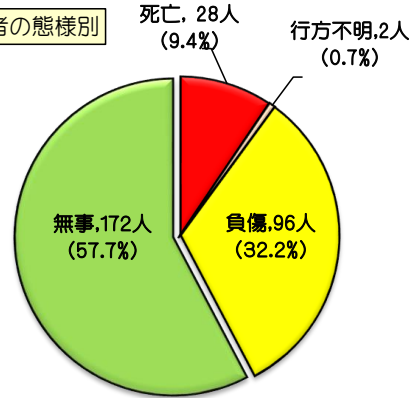
# 冬山シーズンにおける山岳遭難発生状況(北海道)

(冬山シーズンは、毎年11月から翌年3月までの間)

## □ 冬山遭難発生状況(過去5年冬山シーズン)

	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年	計
発生件数	40	35	32	65	53	225
遭難者数	50	39	44	94	71	298
死亡	5	3	2	13	5	28
行方不明	1	0	0	0	1	2
負傷	16	16	11	23	30	96
無事	28	20	31	58	35	172

遭難者の態様別

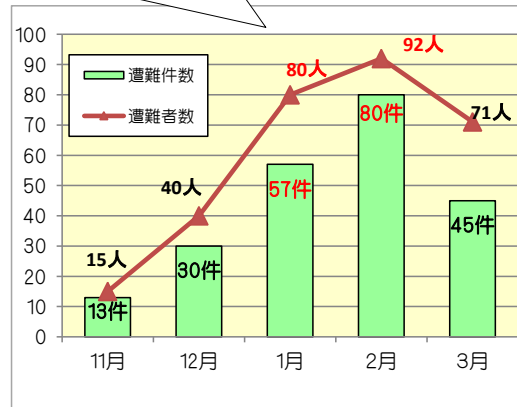


- 過去5年の冬山シーズン中、道内で発生した山岳遭難の発生件数は225件、遭難者数は298人でした。
- 令和5年の発生件数は、前年から大幅に増加した令和4年と比較すると、約2割減少したものの、令和元年から令和3年と比較すると発生件数が多くなっています。(令和5年冬山シーズンは前年比-12件、-23人)

## □ 月別遭難発生件数(過去5年冬山シーズン)

年	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和元年	1	7	10	15	7	40
令和2年	6	3	10	14	2	35
令和3年	1	6	9	10	6	32
令和4年	4	7	17	17	20	65
令和5年	1	7	11	24	10	53
計	13	30	57	80	45	225

過去5年間の冬山シーズン遭難発生状況を月別で見ると、1月と2月に発生が多く、発生件数は、2か月間で全体の約6割を占めています。



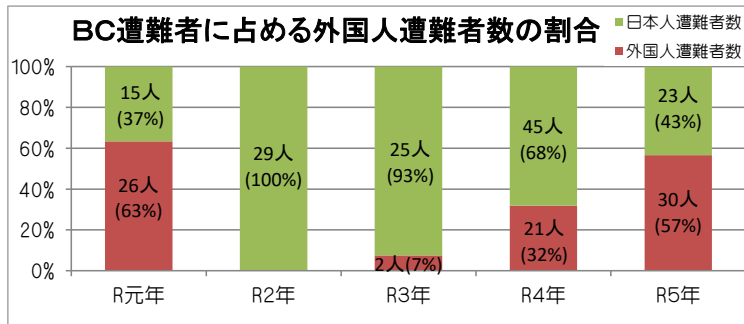
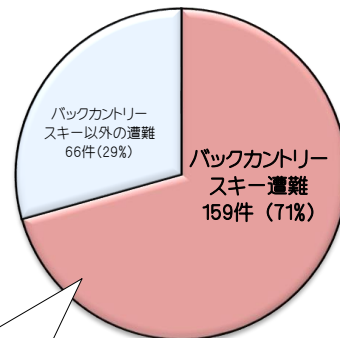
## □ 月別遭難者数(過去5年冬山シーズン)

年	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和元年	1	7	18	17	7	50
令和2年	7	4	11	15	2	39
令和3年	1	9	12	11	11	44
令和4年	5	13	27	19	30	94
令和5年	1	7	12	30	21	71
計	15	40	80	92	71	298

## □ バックカントリースキー(BC)遭難発生状況(過去5年冬山シーズン)

	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年	計
発生件数	32	26	19	43	39	159
遭難者数	41	29	27	66	53	216
外国人遭難者数	26	0	2	21	30	79
死亡	5	3	0	5	5	18
行方不明	1	0	0	0	0	1
負傷	11	13	5	13	24	66
無事	24	13	22	48	24	131

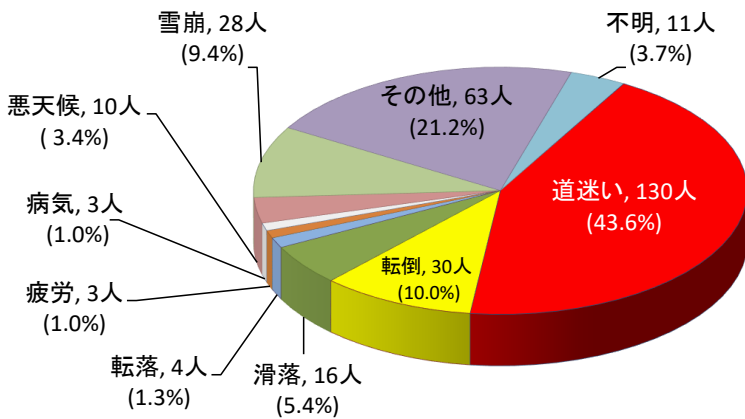
冬山遭難におけるバックカントリースキー遭難件数の割合



- 冬山シーズンの遭難は、バックカントリースキー遭難が全体の約7割を占めます。
- 令和5年シーズンの外国人遭難者は30人で、前年と比較すると9人増加しており、外国人スキーヤー数がコロナ禍前の状況に戻りつつあると考えられます。令和6年冬山シーズンも多く外国人スキーヤーが訪れると予想されます。

□ 遭難者の原因別人数(過去5年冬山シーズン)

	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年	計
<b>遭難者数</b>	50	39	44	94	<b>71</b>	298
道迷い	26	14	24	50	<b>16</b>	130
転倒	5	4	2	12	<b>7</b>	30
滑落	4	1	3	4	<b>4</b>	16
転落	2	1	0	0	<b>1</b>	4
熱中症	0	0	0	0	<b>0</b>	0
低体温症	0	0	0	0	<b>0</b>	0
疲労	1	0	1	0	<b>1</b>	3
病気	2	0	0	1	<b>0</b>	3
悪天候	1	0	3	2	<b>4</b>	10
雪崩	4	4	4	3	<b>13</b>	28
その他	4	14	7	16	<b>22</b>	63
不明	1	1	0	6	<b>3</b>	11



冬山シーズンにおける遭難原因のうち最も多いのは、道迷いによる遭難で、全体の約4割を占めています。  
 冬季は登山道が積雪で埋まっているため、進む方向を見失いやすく、また、吹雪等の悪天候により、視界が真っ白に包まれ「ホワイトアウト」の状態に陥る危険性もあることから、ハンディGPSを携帯するなどの道迷い防止対策が重要です。  
 近年、スマートフォンの地図アプリを活用する登山者が増加していますが、冬季は低温により、バッテリーの消耗が激しいため、モバイルバッテリー等を携帯するなど、バッテリー切れを予防しましょう。  
 令和5年冬山シーズンは、雪崩による遭難が多発しましたが、入山時には、雪質や積雪状況を見極め天候状況を確認しましょう。

冬山シーズンの遭難原因上位

- 第1位 「道迷い」(130件)
- 第2位 「その他」(63件)
- (その他～立木衝突、深雪による行動不能等)
- 第3位 「転倒」(30件)



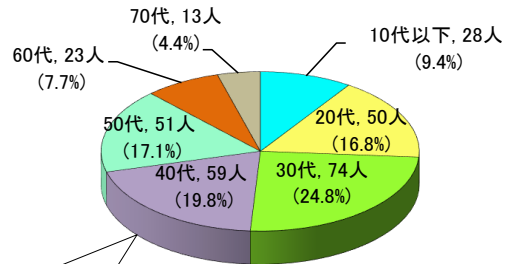
スキー場の遵守事項を守りましょう!

□ 遭難者の年代別内訳(過去5年冬山シーズン)

	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年	計
<b>遭難者数</b>	50	39	44	94	<b>71</b>	298
10代以下	0	1	3	18	<b>6</b>	28
20代	14	6	3	12	<b>15</b>	50
30代	17	10	11	23	<b>13</b>	74
40代	7	8	14	15	<b>15</b>	59
50代	6	9	7	13	<b>16</b>	51
60代	5	4	3	9	<b>2</b>	23
70代	1	1	3	4	<b>4</b>	13
80代以上	0	0	0	0	<b>0</b>	0

※ 冬山シーズンの山岳遭難者を年代別で見ると、30代が最も多く、40代と続く。

山岳遭難者の年代別内訳(過去5年冬山シーズン)



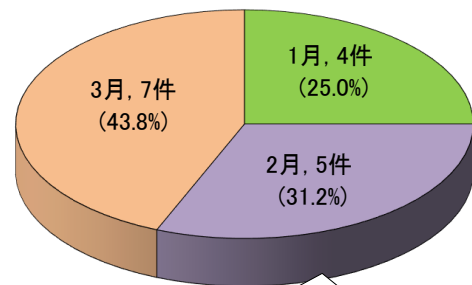
20代から50代で全体の約8割の遭難者を占めており、夏山では60代、70代の遭難者が多いのに比べ、冬山は幅広い世代の方が遭難しています。

□ 雪崩を原因とする山岳遭難発生状況(過去5年冬山シーズン)

	発生年月日	発生場所	遭難者	死傷等別
1	令和2年1月30日	トマム山	1	死亡1
2	令和2年2月1日	敏音知岳	1	死亡1
3	令和2年2月10日	羊蹄山	1	死亡1
4	令和2年3月5日	ニトヌプリ	1	負傷1
5	令和3年1月26日	1107峰(赤井川村)	1	死亡1
6	令和3年2月28日	上川岳	2	負傷1、無事1
7	令和3年2月28日	余市岳	1	死亡1
8	令和4年3月5日	富良野岳	4	負傷1、無事3
9	令和5年1月13日	羊蹄山	1	死亡1
10	令和5年3月5日	羊蹄山	1	死亡1
11	令和5年3月5日	ペケレベツ岳	1	死亡1
12	令和6年1月1日	羊蹄山	1	負傷1
13	令和6年2月28日	狩場山	1	負傷1
14	令和6年3月3日	利尻山	7	死亡1、負傷3、無事3
15	令和6年3月11日	羊蹄山	3	死亡2、負傷1
16	令和6年3月11日	イワオヌプリ	1	負傷1

11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	0	4	5	7	16

雪崩遭難の発生した月(過去5年冬山シーズン)



過去5年間で、雪崩を原因とする遭難は16件発生しており、そのうち2月と3月の発生が12件と、全体の7割以上を占めています。  
 雪崩が発生するおそれがある斜面には近づかないようにするとともに、万が一、雪崩に巻き込まれた場合のために、ピーコック、プロップ、ショベル等の雪崩対策装備を携帯しましょう。